教師の魅力とやりがい
～生徒が可愛くて仕方ありません～

駒木 正清（豊橋市教育委員会教育政策課　総合教育アドバイザー）

１　はじめに

この春、38 年間の教員生活に終止符をうった。工業高校の夜間定時制を出発とし、途中には思いがけず愛知県庁に勤務し、困難校での教頭を経て、校長として新城東高校と最後には母校の豊橋東高校で勤務することができた。一昨年、季刊誌「明治」61 号の「高校教育の現場から」にその豊橋東高校での様子を書かせていただいた。

今回、明治教育会の分科会で発表の機会をいただき、私の教育に対する原点の一つである母校明治大学の教職を目指す後輩の何かお役に立つことができたらと思い 90 分を務めさせていただいた。構成として　(1)挫折、そして　(2)夜間定時制での出発　(3)日本史の授業における実物教材　(4)生徒の心をつかむアイスブレイク　(5)教育雑感とした。時間配分が悪く最後の教育雑感は資料を準備していただきながら解説をすることができなかったことを反省している。(5)教育雑感は、教員を目指す学生に私が 38 年間の教員生活を通して、感じたことや様々な教員研修や先輩方からの教えをまとめたものに今回少し手を加えたものである。典拠を示すことができないが参考にしていただければ幸いである。

２　教員人生を振り返って

(1)　挫折、そして

北海道大学を目指すも、浪人はできないという状況の中でどうせやるなら強い大学でラグビーをやろうと無謀にも高３の 10 月に受験教科を 10 教科から３教科に絞り、その年の大学選手権１、２、３位の明治、早稲田、中央の３校を受験した。明治大学ラグビー部の門をたたくも大学日本一に輝いたラグビー部の練習と寮での生活は半端なものではなく、わずか一カ月で退部をすることになる。目的を失い、仮面浪人も考えながらあてのない生活をする中、神保町を歩いていて古書店の店先に目をやると１冊 100 円で並べられた谷崎潤一郎の「細雪」が目にとまり、足を止めた。受験勉強で谷崎潤一郎は耽美派、著作は他に「刺青」「痴人の愛」「春琴抄」と言えるが、どの本も読んだことはない。何と無味乾燥な中身のない勉強をしてきたのかと愕然とした。早速、持ち金をはたいて日本文学を 20 冊ほど購入し、その日から読みふけった。読破するとまた神保町で本を漁り、秋には外国文学に手を伸ばした。後に、愛知県庁に勤務することになり、６時 30 分から 70 分の通勤時間、周りの人はうたた寝をする中で、学生時代にできなかった長編物にチャレンジし、『徳川家康』26 巻、『人間の運命』14 巻、『ジャン・クリストフ』10 巻……と新たな楽しみを見つけ、充実感を味わった。新任として初めて訪れた岡崎工業高校の校長から最初にこう言われたことを思い出す。「自費で毎月教育雑誌を２冊購入して読みなさい」「教員のうちに１冊本を書きなさい」。生徒の受験指導でも論述、記述では小手先の技術だけで

は限界がある。読書量とその質が問われる。また、読書は人生の大いなる指針となり、選択幅を広げることができる。

文学作品を読みふける日々を通して、大きな挫折から高校教員になろうかという新たな目標を見出した。また、東京六大学野球の応援に足繁く通い、校歌、第１・第２応援歌、特に古賀正男作曲の学生歌の哀調を帯びた調べと１万人以上で吹く口笛に圧倒された。在学中に３回優勝することができ、その瞬間の紙吹雪とその後の応援団による明大節に酔いしれたことを今でも覚えている。早慶戦後に絵画館前から大学まで優勝パレードで提灯行列をし、沿道の方から酒をふるまわれ明治を謳歌する中で明治に対する愛着は高まっていった。ラグビー部も日本選手権で国立競技場を満員にし、三菱自工を破り日本一に輝いた。

教員採用試験に向けて初めて本気になって勉強をした。大学受験の勉強がつくづく甘かったことを実感した。母校での教育実習を通し、どうしても高校教員になりたいという思いが強くなっていたのでその勉強も苦にはならなかった。

(2)　夜間定時制での出発

４年生の 12 月に岡崎工業高校の校長から電話があり、「４月から岡崎工業高校に来てもらいます」間をおいて「課程は夜間定時制です」と言われる。「わかりました。日本史を頑張りたいと思います」と言うと、「日本史はありません」。「ラグビー部は」と聞くと、「ありません」とのことだった。２年目に初めて担任を持った。４年間持ち上がり、卒業生の人数は入学時の半分に減っていた。夜間定時制では、昼間働き、給食をはさんで４時間の授業、さらに業後の生徒会活動や部活動と定時制での４年間は、苦労が大きかった分だけ卒業式は感動的であった。参列した中学校の担任や企業主も涙をぬぐっていた。いつもは緊張感に欠けることもある下級生もこの晴れの日ばかりは静まり返る。９年間勤務した中で、世界史から日本史に変え、ラグビー同好会も作った。その日本史の授業でいかに生徒が関心を持つかに苦慮し、実物教材の開発に取り組んだ。

(3)　日本史の授業における実物教材（参考　注１）

授業の導入、山場において実物教材を使うことの魅力は、「実物大」「面白い」「分かる」「総合的」「立体的」「生の迫力」で、情報量を圧倒的に増加させる。また、モノによって、五感（視覚、聴覚、味覚、触覚、臭覚）を刺激し、授業効果が非常に高い。

当日は、実物投影機を使い、正露丸と「征露丸」（日清戦争で生水により兵隊が体調を壊したことから、日露戦争でクレオソート丸に「露西亜を征服する丸薬」の思いを込め「征露丸」と命名した。平和条約締結後「正しい露西亜の丸薬」と改名した）。フィンランド製「東郷ビール」（バルチック艦隊を破った東郷平八郎ラベルのビール）。韓国の子供向け絵本、「李舜臣」（秀吉の日本水軍を破った名将）「安重根」（伊藤博文暗殺の英雄）「柳寛順」（韓国のジャンヌダルク）。「漢の委の奴の国王」の金印レプリカ。繭と生糸。太閤検地の検地尺レプリカ。木簡レプリカ。Made in Occupied Japan の瀬戸物カップ（占領下の日本では Made in Japan を使えなかった）。俵物「フカヒレ・干鮑・イリコ」（特にフカヒレは臭いが強烈で数少ない臭覚を刺激する教材）。「原爆瓦」（広島の爆心地近くで高温で表面が溶けた瓦、重なり溶けなかった部分との比較ができる）。などを紹介した。

(4)　生徒の心をつかむアイスブレイク

第一印象、最初の出会いは大切である。９年間勤務した定時制では生徒の人数が少ないこともあり、先輩の教えで生徒の名前を覚え、名前で呼ぶことを心がけていた。全日制の普通科に転勤し、1 年生 47 人の担任になった時、幸い入学生説明会で生徒の顔写真が撮ってあったので、「今までのように、初日に全員の名前を呼んでやろう」と意気込んだ。入学式の朝、下駄箱で一人ずつ生徒の名前を呼ぶと生徒の驚く顔があったが、確かな手ごたえを感じた。後に同窓会やクラス会で、「あの時は驚きました。嬉しかったです」と話題になる。クラス開きや朝の会での自己紹介は、話すことが苦手な生徒にとっては大きな苦痛となるが、これも一工夫をしていた。それぞれの生徒が自分の好きな曲を最初にデッキから流し、その曲を選んだ理由を語るものである。それぞれの個性が出て、生徒理解に役立った。中には「三味線を弾いていいですか」と申し出る生徒もいて盛り上がった。

新任教員が初めてクラスを持ち､｢私はあなた方の自主性を大事にしたクラス作りをしていきたい｣と宣言したものの､規律が乱れ途中から前言を翻して生徒の不評を買うということがままある。私は、最初が肝心と集団生活の規律とルールを守ることは徹底した。そして、６月頃の遠足では集団ゲームで盛り上げ、厳しさと楽しみのメリハリを伝えた。

今回、初対面の参加者の不安や緊張を解き和やかな雰囲気を作る目的でアイスブレイクを行った。自己紹介に使える「四文字熟語」。｢マンションの住人｣と「絵を描いてみよう」による心理テスト。班対抗によるゲーム｢16 の漢字による県名探し｣｢16 文字による動物・植物探し｣「16 文字による食べ物探し」「並び替え名前探し」「２から３の空欄に同じ文字を入れて単語完成」などで盛り上がった。

(5)　教育雑感

最後に校長だからできることに触れ、部活動の発表会や試合の応援に年 65 日、134 回行き生徒から感動をもらったこと。そのことを行事や講話で紹介できる幸せ。試合のメンバー表で生徒の名前を覚え学校で語りかけたこと。生徒への講話では、実際に見たこと、経験し感じたこと、感動したことを話してきたことを伝えた。その一例に「東京ディズニーランドでの思いやり」の話を紹介した。

次は、説明をすることができなかったが、私から教員を目指す学生に伝えたいことである。

ア　日ごろの教育の場を通して感じ、考えたこと

(ｱ)　その教師に出会うことによって、ある人間の運命が決定されるような教師が真の教師である。（気負って言ったことは伝わらず、意外と思うことで影響を与えていることがある。卒業生の思い出の多くはエピソードでつづられる。「先生はあの時こんなことを言われた｣と聞かされてハッとすることがある。意識するしないにかかわらず、教師の一挙一動は生徒にとって関心の対象であり、心に刻み込まれる。）

(ｲ)　生徒が学ぼうとするところに教育の成果が生ずる。（これが本当に難しい）

(ｳ)　教師が自分の授業を大切にしてはじめて生徒も授業を大切にする。（教師がどれだけのモチベーションを持って、どれだけの準備をして授業に臨んでいるか、生徒

にはすぐにわかってしまう。50 分間生徒の前に立つということは、50 分間評価され続けるということ。

(ｴ) 教育活動の場では、教師と生徒は対等ではない。教育する場(教師)とされる場(生徒)があって教育である。（生徒にため口を使わせてはならない）

(ｵ) 教育の「厳しさ」とは、生徒をきつく叱ったり、厳しい言葉で注意することではない。生徒が実践するまで根気よく指導することである。

(ｶ) 自分の授業管理（生徒の居眠り、私語の放置)のできない教師は、自分の授業に対する自信と誇りと権威を放棄したことである。

(ｷ) 教師の教科・科目に対する自信と実力が、生徒を信頼させ、敬服させる。

(ｸ) 生徒理解は生徒への迎合であってはならない。

(ｹ) 「見逃す」「見て見ぬふりをする」は生徒理解ではない。それは教師の指導力の欠如を示すものである。

(ｺ) 叱るときは徹底して叱れ。心を込めて叱れば、必ず相手に通じるものである。

(ｻ) 「指導した」ということは、それなりの効果が表れなくてはならない。

(ｼ) 日常の細かいことでも、その場で指導し、注意することが基本である。

(ｽ) 「類は友を呼ぶ」。生徒の友達や仲間について熟知していなければならない。

イ 教科指導を通した生活指導の反省 （折に触れ、自己評価をしてみてください）

(ｱ) 授業は真剣勝負の場である。教師自身が身だしなみを整え、始業・終業共に「礼で始まり、礼に終わる」ことを実践させているか。（最初が肝心）

(ｲ) 生徒一人ひとりの、眼付・顔色、言葉を絶えず観察し、生徒の心的状態の動きをつかみながら、授業展開ができているか。（黒板だけを見てはいけない。板書する時でも後方に目配り、気配りをしているか）

(ｳ) 机間巡視をしながら、学習活動の評価をしつつ、生徒一人ひとりの服装、持ち物、髪型、体の様子などが十分に観察できているか。

(ｴ) 指名応答・氏名音読などは返事をしっかりさせ、起立させたうえで、全体に届く声でさせているか。また、そうでない場合は、やり直しをさせる指導が定着しているか。（同じクラスでも、生徒の様子は違う。先生で使い分けている）

(ｵ) 教科書・ノート・筆記具・課題などの忘れ、予・復習などがなされていない生徒に対する処置は、その都度、その場で適切に指導されているか。

(ｶ) 基本的な挨拶(おはようございます、今日は、はい、お願いします、失礼します、すみませんなど)が教科指導以前の問題として、教師に認識され、生徒一人ひとりに要求されているか。（最初が肝心、やりきる指導）

(ｷ) すべての言動が、生徒への影響となってあらわれてくることを認識し、授業中・放課後を問わず、深く配慮しているか。（生徒は見ている、聞いている）

(ｸ) 人生の体験者として、先達として、自信と誇りと責任を持って生徒一人ひとりに接しているか。（教員は、身近な一番良いキャリア教育の鏡）

(ｹ) 生徒を大声で叱り、怒り、苦しみ、涙する勇気をもって臨んでいるか。もしなけ

れば、どのような方法で迫っているか。（プロという言葉に躊躇するな）

ウ　授業研究の反省と課題と　（折に触れ、自己評価をしてみてください）

(ｱ)　本時の表題、見出しを忘れていないか。本時の目標は明確か。

(ｲ) 生徒の名前と顔はいつごろ（何月ごろ）覚えたか。（プロなら覚えましょう）

(ｳ)　指名してから発問していないか。（誰に考えさせたいのか）

(ｴ)　指名した生徒が即答できなかったらどうする。（答えられないのはチャンス）

(ｵ)　常に生徒の反応を確認しつつ、授業の山場あるか。（意図的に山場で勝負）

(ｶ)　生徒に読ませる範囲は適量か。教師は他のこと（板書など）をしていないか。

(ｷ)　毎時の授業展開に変化があるか（ＩＣＴ、資料の活用など）。

(ｸ)　自信を持って授業に臨んでいるか。迫力のある授業になっているか。（準備が勝負、思い入れのある教材準備は伝わり方が違う）

(ｹ)　週末課題など、他教科との調整をして適当な量にしているか。

エ　授業評価……教師は授業が命（自分の授業を時宜をとらえて（４段階で）自己評価する。積極的に生徒による評価にチャレンジ。次に来る生徒のためにより高みを目指す）

４　かなり当てはまる　　３　やや当てはまる

２　あまり当てはまらない　　１　ほとんど当てはまらない

(ｱ)　学習環境（同じクラスでも教師で変わる）

a　チャイムと同時に授業が開始できている。（プロとしての真剣勝負の場、教師の空気は必ず伝わる）

b　生徒は身だしなみを整えている。（教師自信も清潔感が大切）

c　机上に不要物はなく、教材が準備されている。（ルールとチェックで定着）

(ｲ)　教材の準備（教師の思い入れは必ず伝わる）

a　指導内容等の教材研究が十分行われている。（行事・旅行は準備で８割がた決まる）

b　教材の選択が適切に行われている。（準備したものから選び抜いた２割）

c　効果的なプリントや学習プリントが準備されている。（単純作業・穴埋めではなく、生徒自身が考えるプリントの工夫）

(ｳ)　授業展開（歴史は面白い！　という思い）

a　指導者の声の大きさが適当で、言葉が明瞭である。（メリハリ、強弱、速さで生徒の反応をつかむ）

b　説明が的確で分かりやすい。（専門的内容を平易な言葉で）

c　学習意欲を喚起するような工夫がされている。（実物教材、日常の出来事とからめる）

(ｴ)　指導方法（ベテラン・目指す師匠に学ぶ。師匠の年になった時に追いつく）

a　生徒に学ぶ力を付けさせる工夫がされている。

b　生徒の理解を促すような発問の工夫をしている。（間を使いこなす。「分かり

ません」には、「何を聞いているかが分かりません」もある）

c　生徒の理解を促すような板書の工夫がされている。（上手くなくとも）丁寧な字、後で生徒がノートを見てわかる板書）

d　授業に集中できない生徒に注意を喚起している。（その場で指導）

e　生徒の活動や発表場面を設定している。（どの生徒に当てるか、意図を持った指名。日にちや順番はだめ）

(ｵ)　学習態度（生徒が授業に問題意識を持って臨む仕掛け）

a　生徒は真剣な態度で授業に集中している。（私語、居眠り、内職を見逃さない）

b　生徒は予習・復習等により授業の準備ができている。（予習・復習を前提としない授業って？次からは予習を、復習をしようと生徒が思い知る授業）

c　生徒は板書されたことだけでなく、必要なことをノートにとっている（それぞれの生徒が理想のノート（作り）の追求をする。

(ｶ) 学習指導（ルールとレフリー、評価）

a　課題の提出指導を徹底している。（駄目な場合、人の否定でなく事柄の否定）

b　小テストを計画し、定着を図っている。

c　復習や課題の提示を適切に行っている。

(ｷ) 総合評価

a　基礎的・基本的な知識及び技能・技術の定着が図られている。

b　知識及び技能・技術を活用し、考える力を育成している。

３　あとがき

今回、この発表を通して自分自身の教員生活を振り返る良い機会ともなった。つくづく教師とは素晴らしい仕事だと思う。行政にかかわった７年間、正直感動して涙を流すことはほとんどなかった。現場に戻り、生徒を相手にし、対象が子どもですから怒れてしまうこともあったが、何度も涙を、それも感動、感激の涙を流すことができた。毎回、卒業式の式辞では生徒の在校中の様子を語りながら、いろんな情景が脳裏に浮かび、涙ぐんでしまい、「校長先生が先に泣くのはずるい」と卒業生に言われた。私は校長として理想を語ることに努め、笑顔でいることに努めた。「笑顔には笑顔が返ってきます」。卒業アルバムに生徒が書いてくれた「校長先生の笑顔に３度救われました」の言葉は私の宝物の一つです。現在、豊橋市の教育委員会に勤務し、義務教育の勉強をしながら新たな出会いに感謝をしている。まだまだこれから感動することに出会えることに胸をときめかせている。

（注１）社会科複製資料「歴史レプリカ」清水書院・1990

復刻版戦争実物資料「平和への提言」あけび書房・1987

復刻・戦争と平和の実物資料・桐書房・1993

復刻・平和と民主主義を考える実物資料・桐書房・1992

歴史地理教育実践選集付録・実物教材集　新興出版社・1992

「手に取る日本史教材」入用と活用･宮内正勝・阿部泉共著･地歴社･1988

「歴史モノ教材で授業を変える」･白川隆信･地歴社･1993

「日本史モノ教材」入用と活用･阿部泉共著･地歴社･1993

「モノで社会科授業が変わる」法則化城北教育サークル･明治図書･1991

「モノからの社会科授業づくり」若木久造･日本書籍･1992

朝日新聞縮刷版